

吉野川市山川町の社寺建築

社寺建築班（郷土建築研究会）

酒巻 暢代^{*1} 大坂 公吉^{*2} 木宮 茂樹^{*3} 黒崎 仁資^{*4} 齋藤 栄^{*5} 坂口 敏司^{*6}
 中野 真弘^{*7} 真鍋 憲司^{*8} 宮田 育典^{*9} 森兼 三郎^{*10}

要旨：神社本殿の様式は、流造が15社、疑似神明造が4社、春日造が1社あり、その他に小社殿・見世棚造が多くみられた。寺院本堂は、2カ寺で近代の建物を確認した。吹きさらし開放形のお堂を、山間部で2カ所確認することができた。

キーワード：疑似神明造、鐘楼の四方内転び、開放形のお堂、棟札

1. はじめに

吉野川市山川町は、吉野川中流域の南岸に位置し、東は吉野川市川島町、西は美馬市穴吹町、南は吉野川市美郷、北は阿波市阿波町に隣接している。

私たち社寺建築班は、7月29日から山川町に入り、社寺建築を建築学的見地から、神社52社、寺院11カ寺、お堂・お庵は13カ所を調査し、案内図を作成した（図6）。それぞれの^{こんりゅう}建立年代や構造、建築様式などを一覧表（表1・2・3）にまとめ、そのうち神社1社、寺院2カ寺、お堂2カ所について詳細調

査を行い、実測図を作成した。また、神社7社とお堂2カ所で55枚の棟札を調査、寸法・年代・大工名等の内容を記録し表にまとめた（表4）。建築年代は、資料や棟札から確認できるもの以外は、建築様式から推測した。以下その内容について報告する。

2. 吉野川市山川町の社寺建築概要

1) 神社建築の概要

今回の調査において、棟札により確認できたものの中で建立年代が古かった建物は、川田の川田八幡神社と奥川田の天日神社である。前者は享保16年



図1 山崎忌部神社 本殿 忌部山



図2 種穂神社 本殿 川田忌部山

*1 Y・M・設計室 *2 大坂工務店 *3 木宮建築設計事務所 *4 黒崎建設 *5 すだち建築設計室
 *6 坂口建築設計室 *7 真建築都市研究室 *8 studio KEN *9 宮田建築設計工房 *10 A+U森兼設計室

(1731), 後者は寛政元年(1748)年の再興で, 共に本殿の建物がこれに該当する。

本殿の建築様式は, 徳島県下で最も多い様式の流造^{ながれづくり}が15社, 擬似神明造^{ぎじんめいづくり}が4社, 春日造^{かすがづくり}が1社であり, その他に小社殿や見世棚造^{みせだなづくり}が多くみられた。神明造とは, 伊勢神宮正殿の建築様式で, 平入切妻造^{ひらいりきりずま}の建物である。忌部山の山崎忌部神社(図1)には千木^{ちぎ}・堅魚木^{かつおぎ}・鞭掛^{むちかけ}, 川田忌部山の種穂神社(図2)には鞭掛^{むねもちばしら}・棟持柱^{むねもちばしら}, 貞田の杵築神社には鞭掛^{むねもちばしら}・棟木に棟持柱の痕跡と思われるホゾ穴, 片岸の十二社神社には鞭掛がある。これらは神明造の部位であることから, 神明造を意識して建てられていると思われる。また, 十二社神社の鞭掛は妻の破風に付き, 一般的には8本であるがこの建物は10本付く造りである。このように4社の様式は, 平入切妻造の直線的な屋根に一部神明造の部位があるのみで, 本来の神明造りを踏襲していないことから, 疑似神明造とした。

十二社神社の摂社・天神社本殿に, 唯一の春日造がみられた。春日造とは, 春日大社本殿の建築様式で, 妻入切妻造^{つまいり}の前面のみに庇を付けた建物である。

2) 寺院建築の概要

本堂は11カ寺にあり, 2カ寺が近代の建物であった。東麓の西法寺本堂(図3)は正面五間, 入母屋造の昭和4年, 西麓の金勝寺本堂は正面五間, 入母屋造, 向拝一間 絶破風の昭和15年に建築された建物である。彫刻が華やかで現代的な木綿麻山の高越寺本堂は, 入母屋造の内陣に妻入^{ないじん}入母屋の外陣を延ばし, 正面中央に軒唐破風の向拝^{のきからはふ}を付けた建物で, 昭和24年に建築されている。その他のものは, 建て



図3 西法寺 本堂 東麓

替えが進んでおり現代の建物であった。

鐘楼^{しょうろう}は11カ寺のうち6カ寺にあり, 特に西法寺と土橋の西福寺, 天王原の潮光寺の3カ寺は同形式の造りであった。桁行一間, 梁間一間, 一重の4本柱で, 共に四方内転^{しほううちころ}びの角度が急である。潮光寺の鐘楼は, 『徳島県の近世社寺建築』より明治時代の建築と考えられる(図4)。

井上の明王院の二重堂^{にじゅうどう}は, 明治41年(1908)に信者の寄進により六地藏尊を安置する建物として建てられたもので, 特異な建築である。初層^{しよそう}は三間四方^{さんけんしほう}で, 縁を回らし^{じようそう}, 上層^{いつけんしほう}は一間四方^{いっけんしほう}, 屋根は宝形造^{ほうぎようづくり}で頂部に相輪^{そうりん}を付ける。その姿は多宝塔形式^{たほうとう}だが, 上層部の平面形状が円形ではなく方形である(図5)。

お堂・お庵は13カ所を調査し, 山間部で吹きさらしの開放形のお堂を2カ所確認することができた。その他のものは, 閉鎖形の比較的新しい建物であり, 近世まで遡るものはなかった。



図4 潮光寺 鐘楼 天王原



図5 明王院 六地藏堂 井上



图6 社寺案内図

表1 神社建築調査一覧表

社名	鎮座地	創建	祭神	旧社格	鳥居様式(材料)
1 山崎八幡神社 はちまん	宮島89	宝徳4年(1452)社殿造営の記録があると伝わる※2	品陀別命 伊香我色雄命 比売大神	旧村社	明神鳥居(御影) 注連縄鳥居
2 忌部神社 しんべ	忌部山14		天日鷲命 津咋見命 天太玉命ほか		神明鳥居(御影)
3 白山比売神社(未調査)	忌部山50		伊佐奈美尊		
4 坊坊師神社(未調査)	忌部山161		大国主命		
5 山神社(未調査)	忌部山107		大山祇命		
6 脳天大神	忌部山				なし
7 天神社	天神				様式外(木造)
8 若戸神社	若戸3		天石門別命 天太玉命		明神鳥居(御影)
9 建美神社	//		天底立命 建御名方命		なし
10 天村雲神社	流32		天村雲命 伊自波夜比売命		明神鳥居(御影)
11 遊鷹夜未神社	祇園24		速須佐之男命 櫛稲田姫命		明神鳥居(御影)
12 若宮神社(未調査)	東麓159		思兼尊 長白羽命		
13 交合石神社(未調査)	祇園40-1				
14 御獄神社	//				なし
15 皇大神宮	//		天照皇大神 豊受大神		様式外(木造)
16 天塚神社	堤外				様式外(木造) 倒壊
17 瀬話八幡神社 はちまん	八幡192	不詳※2	譽田別命 姫大神	旧村社	明神鳥居(御影) 注連縄鳥居
18 恵美須神社	//		大国主命 事代主命		注連縄鳥居
19 日吉神社	湯立329		大己貴尊 伊弉册尊 瓊々岐尊		明神鳥居(御影)
20 春日神社	春日18-1		武甕槌命 経津主命 天津彦根命 姫大神		明神鳥居(御影)
21 諏訪神社	諏訪232		武甕名方命		明神鳥居(御影)
22 福神社(未調査)	若宮131		大国主命 事代主命		
23 若宮神社	若宮39		大己貴尊		なし
24 三島神社	三島302		大山祇命		なし
25 郷土神社(未調査)	三島245		瓊安比売命		
26 流神社(未調査)	三島264		水波女命		
27 総社神社(未調査)	古城128		大己貴尊		
28 山神社	古城144		大山祇命		様式外(木造)
29 若宮神社(未調査)	古城71		大雀命		
30 猿田彦神社(未調査)	古城38		猿田彦大神		
31 城主神社	古城128		市原造酒守		なし
32 恵美須神社	//				なし
33 総社	古城				様式外(木造)
34 延園神社	安楽寺214		素戔鳴命		明神鳥居(御影)
35 野神社	安楽寺269		野槌神 草野姫神 遠安姫神		なし
36 八坂神社 やさか	川東274	不詳※2	素戔鳴命	旧無各社	明神鳥居(御影)
37 山神社(未調査) やま	朝日92	不詳※2	大山祇命	旧無各社	
38 熊野神社 くまの	旗見103	不詳※2	伊弉諾命	旧無各社	明神鳥居(御影)
39 川田八幡神社 はちまん	川田八幡191	不詳※2	譽田別命 足仲彦命 息長足姫命 田心姫命 市杵島姫命 湍津姫命	旧郷社	明神鳥居(御影)
40 天村雲神社 あめのむらくも	村雲133	不詳※2	天村雲命 伊志波夜比女命	旧無各社	様式外(御影)
41 十二社神社 じゅうにしや	片岸127	不詳※2	天照皇大神 応神天皇 菅原道真公	旧無各社	様式外(洗出)
42 八坂神社 やさか	天王原34	不詳※2	素戔鳴命	旧無各社	明神鳥居(御影)
43 高越神社 こうつ	木綿麻山4	神武帝の時代※2	天日鷲命ほか	旧村社	様式外(御影)
44 山神社 やま	笹瀬4	不詳※2	大山祇命	旧無各社	様式外(木造)
45 御先神社(未調査) みさき	笹瀬306	不詳※2	瓊々杵尊	旧無各社	
46 山神社(未調査) やま	桑内262	不詳※2	大山祇命	旧無各社	
47 山神社 やま	櫻谷14	不詳※2	大山祇命	旧無各社	なし
48 王子神社	櫻谷225		若年神		様式外(木造)
49 白人神社 しらひと	橋根地294	不詳※2	瓊々杵尊	旧無各社	明神鳥居(FC造)
50 大野神社 おの	奥野井62	不詳※2	大山祇命	旧無各社	様式外(木造)
51 山神社	//				
52 中御前神社	井上9		息長足姫命		なし
53 井田神社	井上67		猿田彦命		なし
54 野郷神社	川田1112		茅基姫命		倒壊跡
55 楠木神社	川田				明神鳥居(御影)
56 天日神社	奥川田233		天照皇大神		様式外(S造)
57 奥戸神社(未調査)	奥川田66		伊弉諾命 伊弉册尊		
58 愛宕神社(未調査)	季邦98		軒違突智命		
59 総社 蛭子神社	季邦126		事代主命		なし
60 若宮神社	季邦				なし
61 蛭子神社	町344		事代主命		明神鳥居(御影)
62 御崎神社(未調査)	久宗137		瓊々杵尊		
63 八坂神社(未調査)	久宗133		素戔鳴命		
64 山神社(未調査)	久宗130		大山祇命		
65 野神社(未調査)	久宗27		茅基姫命		
66 種穂神社 たなほ	川田忌部山1	元元年間※2	天日鷲命 天太玉命 櫛糠千々姫命 長白羽命 津咋見命	旧村社	明神鳥居(御影)
67 金木神社 かみぎ	巖山70	不詳※2	素戔鳴命	旧無各社	明神鳥居(木造)
68 梓葉神社 きつせ	貞田118	不詳※2	大物主命 三穂津姫命 佐々良姫命	旧無各社	台輪鳥居(御影)
69 恵美須神社 えびす	川田市111	不詳※2	事代主神	旧無各社	明神鳥居(木造)
70 石堂の神社	石堂				様式外(FC造)
71 住吉の神社	住吉				様式外(木造)
72 藤岡神社	引地		瓊々杵尊 天二止命		なし

※1 山川町史(1987年) ※2 徳島県神社誌

表2 寺院建築調査一覧表

寺院名	所在地	開基	宗派	本尊
A 西法寺	東麓7		真言宗	
B 金勝寺	西麓93		真言宗	阿弥陀如来
C 聖天寺(証律院)	東麓203		金峰山修験本宗	聖観音菩薩 大聖観音天
D 大師庵(古城大師教会)	古城		真言宗	
E 高越寺	木綿麻山3		真言宗	金剛蔵王尊
F // 奥の院 蔵王大権現	//			
G 医光寺	久宗150		真言宗	薬師如来
H 明王院	井上214		真言宗	不動明王
I 穴地藏堂	//		木造 二重堂 本瓦葺	
J 瀬光寺	天王原59		真宗	阿弥陀如来
K 西福寺	土橋82		浄土真宗	阿弥陀如来
L // 御真影堂	//			
M 福生寺	川田405-1		真言宗	薬師如来 聖観世音菩薩
N 中前寺	中ノ郷			

※1 山川町史(1987年) ※3 近世社寺

平成23年9月末日現在

本殿 建築様式	拜殿 建築様式 向拜	特記事項	A	B
木造 一間社流造 銅板葺	木造 入母屋造 千鳥破風 銅板葺	本殿・拜殿を平成5年に建替		
RC造 一部木造	RC造 一部木造			
石造	なし			
木造 一間社流造 (様式外) 銅板葺	木造			
木造 小社殿 覆屋	木造 入母屋造 本瓦葺/向拜 切妻造	大正15年 社殿改築		
小社殿	なし	若戸神社境内に鎮座		
木造 一間社流造 (様式外) 銅板葺	木造			
木造 小社殿 (様式外)	木造 切妻造 本瓦葺/向拜 入母屋造	境内に秋葉神社 (石造) が鎮座		
木造 小社殿	なし			
木造 小社殿 覆屋	木造 切妻造 鉄板葺/向拜 入母屋造			
木造 小社殿 見世棚造 覆屋	なし			
木造 三間社流造 銅板葺	木造 入母屋造 千鳥破風 本瓦葺			
木造 小社殿	木造 切妻造 本瓦葺/向拜 入母屋造	瀬田八幡神社境内に鎮座		
木造 一間社流造 銅板葺	木造 入母屋造 本瓦葺	昭和7年の記念碑 (本殿、拜殿の改築)		
木造 一間社流造折屋根 銅板葺	木造 切妻造 本瓦葺/向拜 入母屋造			
木造 小社殿 (様式外)	木造			
木造 小社殿 見世棚造 覆屋	木造			
木造 小社殿 見世棚造	なし			
小社殿	なし			
小社殿	なし			
木造 一間社流造 銅板葺	なし	棟札より昭和22年		
CB造	なし	棟札より昭和42年再建		
木造 小社殿 覆屋	木造 切妻造 本瓦葺/向拜 総破風			
小社殿	なし			
木造 一間社流造折屋根 (様式外) 鉄板葺 見世棚造	CB造			
木造 一間社流造折屋根 鉄板葺 見世棚造 覆屋	木造			
木造 三間社流造 銅板葺	木造 入母屋造 本瓦葺	棟札調査 実測調査		
木造 一間社流造 銅板葺	木造 切妻造 本瓦葺			
木造 一間社擬似神明造 (切妻造) 銅板葺	木造 千鳥破風 総破風			
木造 二間社春日造 銅板葺	木造 片入母屋造 棧瓦葺	通称、天神社と呼ばれる		○
木造 一間社流造 銅板葺	なし			
木造 小社殿	木造 切妻造 棧瓦葺	棟札より、本殿は昭和十四年再建		
木造 一間社流造 銅板葺	木造 入母屋造 銅板葺	元来、高越寺と同一		
木造 三間社流造 銅板葺 見世棚造	木造 切妻造 鉄板葺	棟札より本殿は昭和28年改築 若宮神社も鎮座		
木造 小社殿 見世棚造	木造			
木造 (様式外)	木造			○
木造 二間社流造 (様式外) 銅板葺	木造			○
木造 一間社流造 鉄板葺 見世棚造	木造	棟札より本殿は昭和30年		
		大野神社に棟札あり		
木造 一間社流造 鉄板葺	CB造			
木造 小社殿 (未調査)	木造	地神塔 (寛政年間)		○
石造	なし			
木造 一間社流造 銅板葺	木造	棟札より本殿は寛延元年 (1748) 再建		
木造 小社殿 (未調査)	なし			
木造 小社殿 折屋根 見世棚造	木造	御旅所		
木造 二間社擬似神明造 (切妻造) 鉄板葺	木造 切妻造 本瓦葺			
木造 小社殿 折屋根 見世棚造	RC造	地神塔 (嘉永2年)		○
木造 一間社擬似神明造 (切妻造) 鉄板葺 見世棚造	木造			○
木造 小社殿 見世棚造	RC造			
石造	なし			
木造 小社殿 覆屋	木造	地神塔 (文政元年)		○
石造	なし	金木神社の飛地境内社		

RC造：鉄筋コンクリート造 S造：鉄骨造 CB造：コンクリートブロック造

A：地神塔

平成23年9月末日現在

建物名 屋根形式 屋根材	特記事項
本堂 木造 入母屋造 棧瓦葺	本堂・庫裏は昭和4年に建替/鐘楼
本堂 木造 入母屋造 本瓦葺 /向拜一間総破風	本堂は昭和15年に改築/山門様式は薬医門/鐘楼
本堂と思われる建物跡あり /聖天堂 木造 切妻造 (妻入) 棧瓦葺 向拜入母屋造	
本堂 RC造	
本堂 木造 内陣・入母屋造 外陣・妻入入母屋 /向拜軒唐破風	山門、鐘楼は昭和14年の炎上を免れる/本堂前の鳥居倒壊
本殿 木造 一間社流造 銅板葺 /拜殿 木造	明神鳥居 (木造)
本堂 木造	本堂は昭和31年頃建替/鐘楼/地神塔 (文政8年)
本堂 木造 入母屋造 本瓦葺 /向拜一間総破風	
明王院境内にあり	
本堂 木造 入母屋造 本瓦葺 /向拜一間総破風	本堂は平成5年建替/鐘楼
本堂 木造 入母屋造 本瓦葺 /向拜一間総破風	本堂は平成9年改築/鐘楼
本堂 木造 玉形造 本瓦葺	
本堂 (様式外)	
木造 宝形造 銅板葺	明神鳥居 (御影) あり

RC造：鉄筋コンクリート造

3. 吉野川市山川町の社寺

1) 川田八幡神社 (表1-39)

鎮座地 - 山川町川田八幡

[本殿] 木造 三間社流造 銅板葺
 身舎 - 円柱 (上粽) 地覆長押 切目長押
 内法長押 頭貫木鼻 (拳) 台輪木鼻 平三斗
 中備彫刻 二軒繁垂木 腰板張 亀腹
 地覆延石 妻飾・虹梁 太瓶束笈形付
 向拝 - 角柱 虹梁形頭貫木鼻 (獅子・錫杖彫)
 出三斗 中備彫刻 繫海老虹梁 (錫杖彫)
 二軒繁垂木 四方切目縁 擬宝珠高欄
 腰束立貫 階五級 (木口) 昇擬宝珠高欄
 千木 - 垂直切 2本 堅魚木 - 2本

(図7~9)

この社は、山川町の西部を流れる川田川下流の左岸(西側)に位置し、高越山の山麓に鎮座する。創建は、町史に不詳とあるが、嵯峨天皇が忌部宿弥に祈願所として社殿を再建させ、文治5年(1189)には源頼朝の命により再興されたと伝わる。

本殿は、三間社流造銅板葺きで、花崗岩の基壇に建ち、身舎部分は亀腹と地覆延石を回す。円柱(上粽)を地覆長押、切目長押、内法長押で固め、柱頭部は頭貫木鼻(拳)と台輪木鼻が載る。組物は平三斗とし、彩色された中備彫刻を填める。軒は二軒繁垂木とする。妻飾は虹梁の上に笈形付の太瓶束を立て、その様式から後補されたものと考えられる。内部は、仏教の影響を受け二室に区切られている。奥は一段上げて床を張り、板戸を填める。手前の天井を格天

井で仕上げる。

向拝は、角柱を虹梁形頭貫で固め、獅子の木鼻が付く。身舎と繫海老虹梁で繋ぎ、柱頭部の組物は出三斗とする。柱間には中備彫刻を填める。虹梁形頭貫と繫海老虹梁の絵様の彫りは浅く、形状は簡素であり、下面には錫杖彫を施し、神仏習合の名残が見られる。軒は二軒繁垂木である。縁は四方切目縁とし、擬宝珠高欄を回す。腰は東立に貫を通す。階は木口階段5級で浜床を張り、随神像を安置する。

所蔵する9枚の棟札調査を行い、表4に一覧を記す。最も年号が古いものは、建久8年(1197)上棟で、再興時期の鎌倉時代前期まで遡る。元和3年(1617)以前の5枚は筆跡がよく似ており、元和3年に書き写された可能性もあるため、詳細な年代測定の必要があると思われる。

建築年代は、虹梁の絵様や錫杖彫、また棟札の再興の記述より、享保16年(1731)と推測できる。これ以後の棟札には、上葺、葺替上棟とあり、屋根の修理が数度行われていることが解る。

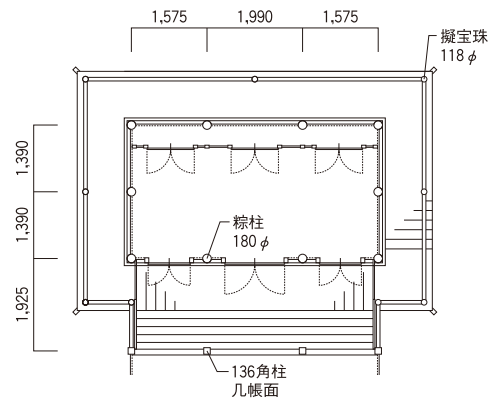


図8 本殿 平面図



図7 本殿全景



図9 本殿 妻飾

2) 高越寺 (表2-E)

所在地 - 山川町木綿麻山

[山門] 木造 三間一戸二階二重門 入母屋造

棧瓦形銅板葺

下の重 - 切石礎石 礎盤 円柱 (上下粽) 地覆石

腰貫 虹梁形内法貫 (桁行) 内法貫

飛貫 虹梁形頭貫 (中央梁間) 頭貫

虹梁木鼻 (籠彫) 厚台輪留 出組 詰組

中備彫刻 (干支) 彫刻板支輪 (雲形)

二軒繁垂木 格天井 横板壁 金剛垣

上の重 - 切目縁 切目長押 円柱 (上粽) 頭貫

頭貫木鼻 (拳) 厚台輪留 二手先 詰組

連斗 尾垂木 中備彫刻 (雲形)

二軒繁扇垂木 棧唐戸 火灯窓 横板壁

擬宝珠高欄

妻飾 - 出三斗 中備彫刻 (雲形) 虹梁 大瓶束笄

形付 懸魚 (飛龍)

[鐘楼] 木造 桁行一間梁間一間 一重 入母屋造

銅板葺

切石基壇 礎盤 円柱 (上下粽) 腰貫

虹梁形内法貫 頭貫 木鼻 (籠彫)

厚台輪木鼻 出組 中備彫刻 (龍)

二軒繁垂木 妻飾・懸魚

(図10~14)

当寺は、高越山 (標高1,133m) の頂上付近東斜面に建つ。

町史に記載されている高越寺私記によると、天智

天皇の時代に役行者によって開基されたとある。近世以前は高越権現と称していたが、明治2年 (1869) 神仏分離令により金剛蔵王尊を本尊とした真言宗の寺となった。

建築年代は、山門が明治38年、鐘楼が同42年、手水舎は年代不詳であるが、彫刻などが似ていることから同じ頃の建立と思われる。昭和14年に上記の建物以外は火災で消失し、本堂は同24年、その後、庫裡・護摩堂・錫杖塔などが建築された。

山門は、本堂から40m程東方向に位置し、三間一戸二階二重門で両脇に彩色された仁王像を安置する。下の重は、柱脚部は礎石に礎盤を載せ、柱は円柱 (粽) で腰貫、内法貫、飛貫、頭貫、厚台輪で固め、壁は横板張りとする。虹梁、籠彫木鼻、十二支の中備彫刻、彫刻板支輪などで飾る。上の重は、切目縁に擬宝珠高欄を回らし、円柱 (粽) を切目長押、頭貫、厚台輪で固め、壁は横板張りとする。開閉装置は棧唐戸、火灯窓を設け、組物は二手先とし、尾垂木、詰組で繋ぎ、中備彫刻で飾る。軒は、放射線状に二軒繁扇垂木で大きく張出す。妻飾は虹梁に大瓶束笄形付で、破風の拌みに飛龍の懸魚を付ける。多彩な彫刻と、礎盤、粽柱、厚台輪、木鼻、板支輪、火灯窓などの禅宗様式が色濃い建物である。

鐘楼は山門の南側に位置し、桁行一間、梁間一間、一重、柱脚部は礎石に礎盤を載せる。柱は円柱 (粽) で腰貫、内法貫、頭貫、厚台輪で固め、虹梁、籠彫木鼻などで飾る。軒は二軒繁垂木で、屋根形状は入母屋造の銅板葺である。山門と同様に、多様な彫刻が近代的な建物である。



図10 山門 三間一戸二階二重門



図11 鐘楼 桁行一間梁間一間 一重

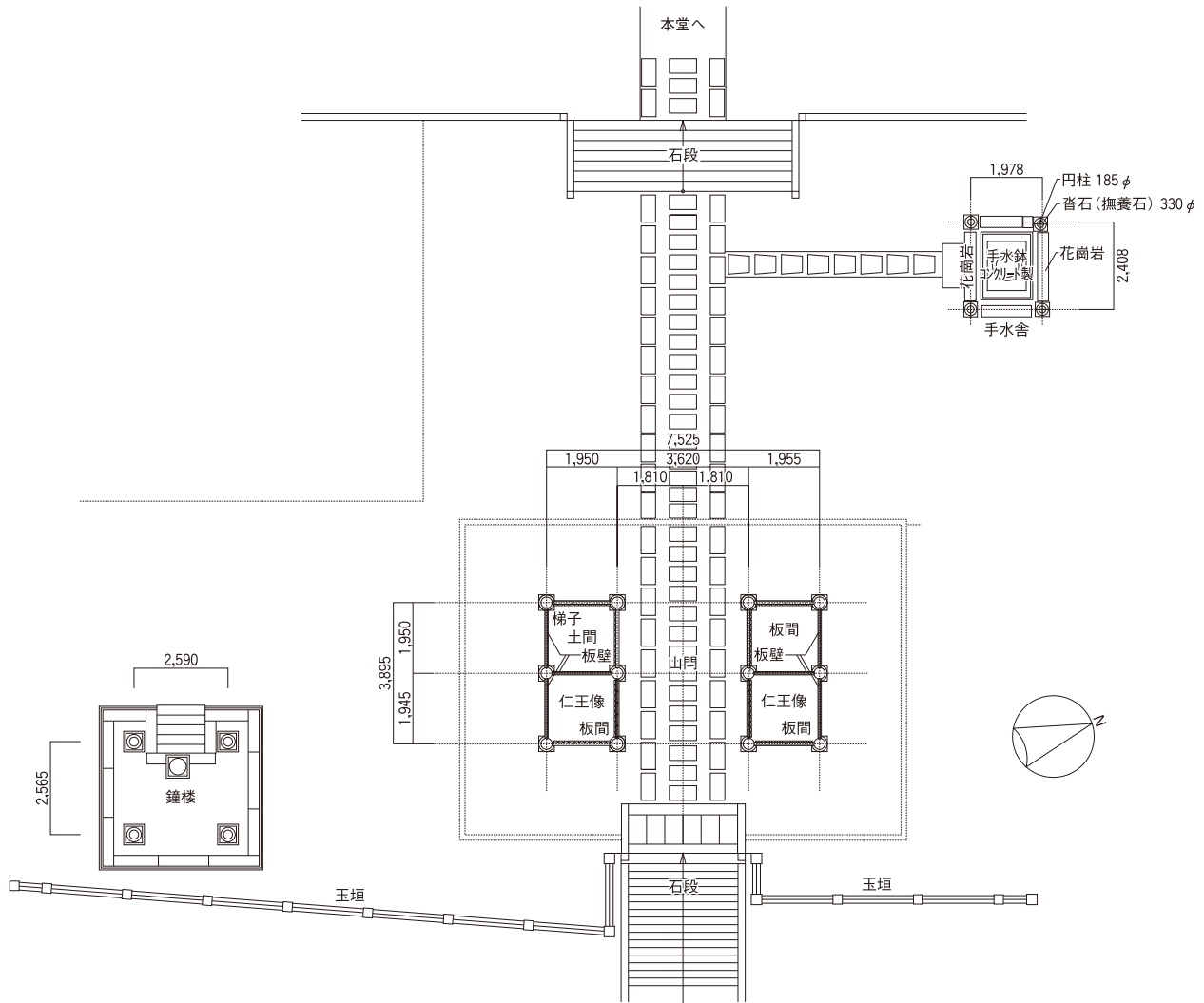


図12 山門・鐘楼・手水舎の平面図



図13 山門の軒裏



図14 山門の中備彫刻 十二支

3) 西福寺 (表2-K・L)

所在地－山川町土橋

御真影堂－木造 宝形造 本瓦葺

角柱 頭貫木鼻 台輪 台輪木鼻

平三斗 二軒半繁垂木 板戸

四方切目縁

(図15～18)

西福寺は、山川町に流れる川田川の西部，土橋にあり，御真影堂は境内の本堂（平成9年改築）南側の高台に位置する。

このお堂は，宝形造の本瓦葺で四方に切目縁が回る。隅に檼材の角柱を建て，頭貫と台輪で固める。軒裏の組物は平三斗とし，中備には^{かえるまた}臺股彫刻（菊）を配し，軒は二軒半繁垂木とする。正面の開閉装置には，狭間切り火灯と豎舞良戸に引分けの板戸が付く。窓は，連子格子の狭間窓である。室内の来迎柱には円柱を用い，奥筋には禅宗様の^{ずし}厨子が埋められている。

特徴は，外壁に三角形の校木を使用していることである。これは正倉院の^{あぜくらづくり}校倉造のように見えるが，校倉造は校木を井楼組にして外壁を構成し，柱を用いないことから，このお堂の校木には構造的な役割はない。また，中備彫刻や瓦の^{ともえがわら}巴瓦・^{とりぶすま}鬼瓦・鳥袈などに，皇室の紋章に使われる菊紋や桐紋が多くみられる。

建築年代は以上のことから推測すると，幕末から明治頃と思われ，校木を使ったお堂は，県内における貴重な遺構として保存が望まれる。



図16 御真影堂 全景



図17 中備 臺股彫刻（菊）

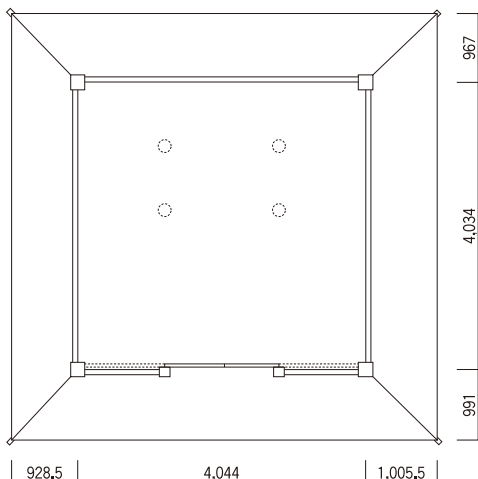


図15 平面図



図18 校木の外壁

4) 開放形のお堂 皆瀬の大師堂，桑内の薬師堂

県内の山村集落には，字ごとに神社とお堂が建てられた。お堂は，剣山の分水嶺を境に北部は吹きさらし開放形，南部は四方を壁で囲う閉鎖形，西部は両方が混在する傾向がみられる。周辺地域のこれまでの調査では，山間部の穴吹町や木屋平，神山町，美郷で吹きさらしの三間堂を確認している。

今回の山川町での調査においては，13棟のお堂を確認した。そのうちの2棟，皆瀬の大師堂と桑内の薬師堂で四方吹きさらし開放形のお堂が確認できた。残りの11棟は，集会所やお庵のような外観のものが多く，四方を壁で囲う閉鎖形で，比較的新しい現代に建て替えられたものである。

なお，平野部から吉野川を挟む対岸地域の阿波町では，閉鎖形のお庵形式が多くみられる。

(図19~22)

皆瀬の大師堂 (表 3 - e)

所在地 - 山川町皆瀬 昭和29年 (1954) 棟札による
 木造 桁行三間 梁間三間 寄棟造^{よせむねづくり}
 トタン葺 角柱 地長押 地貫 腰貫
 内法貫 内法長押 開放形 一軒疎垂木^{まぼら}

このお堂は，山川町皆瀬に建つ，桁行三間，梁間三間，平入寄棟造で四方吹きさらし開放形の三間堂である。青石の礎石に柱を立て，柱脚を地長押と地貫で固め，床に拭板を張り，縁は省略されている。構造固めは貫構法で，腰貫，内法貫，内法長押，梁の上に桁が乗る折置組である。向拝は省略されているが，中央に曲形の飛貫を設けて正面性を出している。背面壁筋に腰板を張り，中央に厨子を置き石仏



図19 大師堂 正面全景

の弘法大師を祭る。

建立年代は，棟札により昭和29年 (1954) に再建されたものと考えられる。

桑内の薬師堂 (表 3 - d)

所在地 - 山川町桑内 明治33年 (1900) 棟札による
 木造 桁行三間 梁間五間 切妻造
 波トタン葺 角柱 地長押 地貫
 腰貫 内法貫 開放形 一軒疎垂木

このお堂は，山川町桑内に建つ，桁行三間，梁間五間，妻入切妻造で四方吹きさらし開放形のお堂である。青石の礎石に柱を立て，柱脚を地長押と地貫で固め，床に拭板を張り，縁は省略されている。構造固めは貫構法で，柱頭までを腰貫と内法貫で固め，梁の上に桁が乗る折置組である。向拝は省略されているが，中央に飛貫を設けて正面性を出している。また，正面奥中央に仏間を設けて薬師如来像を祭る。

建立年代は，棟札により明治33年 (1900) に再建されたものと考えられる。



図20 薬師堂 正面全景

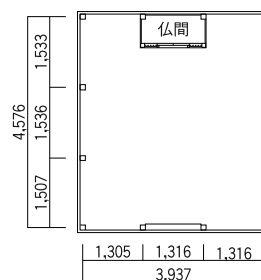


図21 大師堂 平面図

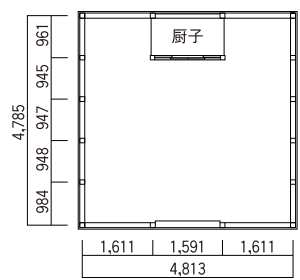


図22 薬師堂 平面図

4. おわりに

今回の調査で、神社建築は、擬似神明造の本殿が4社あり、近隣の市町村と比較しても数が多く、興味深かった。寺院建築は、2カ寺で近代に建てられた本堂を確認することができた。お堂は、山間部で開放形のお堂2カ所を確認でき、美郷・穴吹町などの周辺地域と同じように開放形のお堂が建てられていることが分かった。

その中でも高越寺は、明治時代に建てられた山門・鐘楼・手水舎と、昭和24年に建てられた本堂などが残る。町内の建物の中でも一段と目を引く建築

物群であり、価値が高く、文化財として保存を願う。

最後に、今回の調査において、神社やお堂の場所の特定に苦勞したが、住民の方々のご協力を得て調査することができた。また、川田八幡神社の宮司のご協力を得て、貴重な棟札の調査をすることができた。この場を借りてお礼を申し上げる。

文献

『山川町史』(1959) 山川町史刊行会。

『山川町史』(1987) 改訂山川町史刊行会。

『徳島県神社誌』(1981) 徳島県神社庁。

『阿波のお堂』(1988) 徳島県出版文化協会。

『徳島県の近世社寺建築』(1990) 徳島県教育委員会。

Architecture of shrines and temples in Yamakawa Cho in Yoshinogawa City, Tokushima, Japan.

SAKAMAKI Nobuyo, OSAKA Koukichi, KIMIYA Shigeki, KUROSAKI Hitoshi, SAITO Sakae, SAKAGUCHI Toshiiji, NAKANO Masahiro, MANABE Kenji, MIYATA Yasunori, MORIKANE Saburo,

Proceedings of Awagakkai, No. 58 (2012), pp. 119 – 130.